

●「グローバル 30」で広がる可能性

しかしながら現在、インターナショナルスクール卒業生でも、国際教養以外の学部に入學できる可能性が広がる動きがあります。このたび、大学において質の高い教育と海外の学生が留学しやすい環境を提供する為の取り組みとして、文科省の国際化拠点整備事業（グローバル 30）がスタートし、採択拠点として修士課程、学士課程合わせて 13 の大学※※が選ばれました。講義は英語で行われ、基本的には日本国籍を持たない生徒が対象になるのですが、中には、日本国籍の生徒でも、高校の4年間を日本以外の教育システムで修了していれば出願対象となる大学もあります。つまり大学によっては、帰国後インターナショナルスクールに編入、そのままインターナショナルスクールを卒業した生徒にも、高校の4年間、海外の高校またはインターナショナルスクールに在籍していれば出願資格を認めているのです。

専攻出来る分野も、物理学・生物学・政治経済など多岐にわたります。ただし、実施期間や出願資格、対象となる学部等は大学によって異なりますので、事前に各大学に確認して頂く必要があります。修士課程のみを対象とする大学もありますのでご注意ください。ちなみに、もともと海外からの留学生を対象としたプログラムですので、ホームページにも詳細の記載は英語のみの大学がほとんどです。

大学や学部によってはかなりの倍率も予想されるので、実際にどれくらい門戸が開いたことになるのかは未知数ですが、新たな選択肢が加わったことは確かです。優れた語学力、貴重な海外での生活経験、ユニークな教育背景を持ちながらも、教育システムの違いという壁に選択肢を狭められてきた帰国子女の皆さんの可能性が、これでほんの少しでも広がったとしたら大変素晴らしいことではないでしょうか。

※ 一部の大学では、海外の高校の卒業を待たずに帰国し、帰国後インターナショナルスクールを含む日本国内の高校に編入した場合でも、海外の高校での在籍年数や、帰国から出願（または入学）までの年数などの様々な条件を満たしていれば、帰国生として受験できることもあるようです。条件は大学、学部によって異なりますので、出願資格の有無は各大学にお問い合わせ下さい。

※※ 東北大学、筑波大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、九州大学、慶応義塾大学、上智大学、明治大学、早稲田大学、同志社大学、立命館大学
(平成 21 年度 7 月現在)

名古屋国際学園 学校概要

名古屋国際学園（名古屋インターナショナルスクール）は、中部地方で唯一、全課程で米国西部地域学校大学協会（WASC）及び、国際バカロレア・ディプロマプログラム（IBDP）の正式認可を受けたインターナショナルスクールです。

愛知県だけでなく近隣の岐阜県、三重県からも、25 カ国以上、約 300 名の生徒が通学しています。授業は全て英語で行われます。



Data

創立 / 1964 年、生徒数 / 約 300 名

設置学部 / 幼児教育部（3 ～ 4 歳児）、小学部（キンダーガーテン ～ 5 年生）、中部部（6 ～ 8 年生）、高等部（9 ～ 12 年生）
認可 / 米国西部地域学校大学協会（WASC）

国際バカロレア・ディプロマ・プログラム（IBDP）

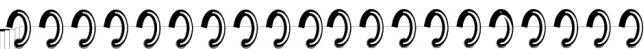
※ 2011 年 国際バカロレア・初等教育プログラム（IBPYP）認定予定

スケジュール

米国の標準的なカレンダーに準じ、始業は 8 月下旬、終業は 6 月中旬となっていますが、入学選考基準を満たしていれば、編入は随時可能です。

卒業後の進路

卒業時には、アメリカのハイスクール卒業と同等の資格が得られるとともに、国際バカロレアのディプロマ資格を取得するチャンスもあります。卒業生の多くは、アメリカ、カナダなど英語圏の大学に進学します。近年では、早稲田大学、上智大学など、英語のプログラムがある日本の大学に進学した生徒もいます。



学校法人 名古屋国際学園

名古屋インターナショナルスクール

〒463-0002 名古屋市守山区中志段味南原 2686

TEL : 052-736-2025 E-mail : info@nis.ac.jp

http://www.nagoyais.jp/japanese (日本語)



インターナショナルスクールの卒業生の日本の大学への進学は、これまで狭き門でした。しかし、日本の大学のグローバル化の流れの中、この 2・3 年でそのチョイスが質量共に増えてきました。

ここで紹介されている「グローバル 30」は、少子化で競争力の低下してきた日本の大学のテコ入れと、近い将来の日本の労働力不足を補うための海外からの留学の増加を目指したものです。

真のインターナショナルな教育への期待と要望が高まっています。